

# 伊那谷・経済動向

## 中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

ALSHIN  
BANK

<https://www.shinkin.co.jp/alshin/>

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業安定所管内)		2025/11 1.31 倍	2024/11 1.35 倍	前年同月比 -0.04 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	5,760 台	6,196 台	-7.04 %
	中古車	2,288 台	2,264 台	1.06 %
	合計	8,048 台	8,460 台	-4.87 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		9~11月 147 件	9~11月 258 件	-43.02 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		51,611 人	47,928 人	7.68 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	314,234 台	295,183 台	6.45 %
	出	263,744 台	270,716 台	-2.58 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	277,934 台	280,904 台	-1.06 %
	出	272,226 台	283,164 台	-3.86 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	161,616 台	152,681 台	5.85 %
	出	158,959 台	150,494 台	5.62 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	253,493 台	251,301 台	0.87 %
	出	257,654 台	255,446 台	0.86 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	78,852 台	76,372 台	3.25 %
	出	67,289 台	66,106 台	1.79 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	188,348 台	194,062 台	-2.94 %
	出	186,372 台	188,718 台	-1.24 %

前期 7 - 9 月 今期 10 - 12 月 来期 1 - 3 月 4 - 6 月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先183社に対し、2025年10~12月期の景気の現状と2026年1~3月期の見通しを調査したものです。

## 地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**16.4%**（前期**14.2%**）、悪かったとする企業は**37.0%**（前期**34.3%**）であった。業種別に見ると、良かったとする企業の割合が最も多かったのは**製造業**で**21.7%**（前期**20.3%**）、次に**サービス業**が**16.7%**（前期**10.0%**）、続いて**建設業**が**15.4%**（前期**5.4%**）の順となった。また、悪かったとする企業の割合が最も多かった業種は**不動産業**で**60.0%**（前期**16.7%**）、次に**小売業**が**58.6%**（前期**56.7%**）、続いて**卸売業**が**40.0%**（前期**42.9%**）、**製造業**が**36.2%**（前期**37.7%**）、の順であった。

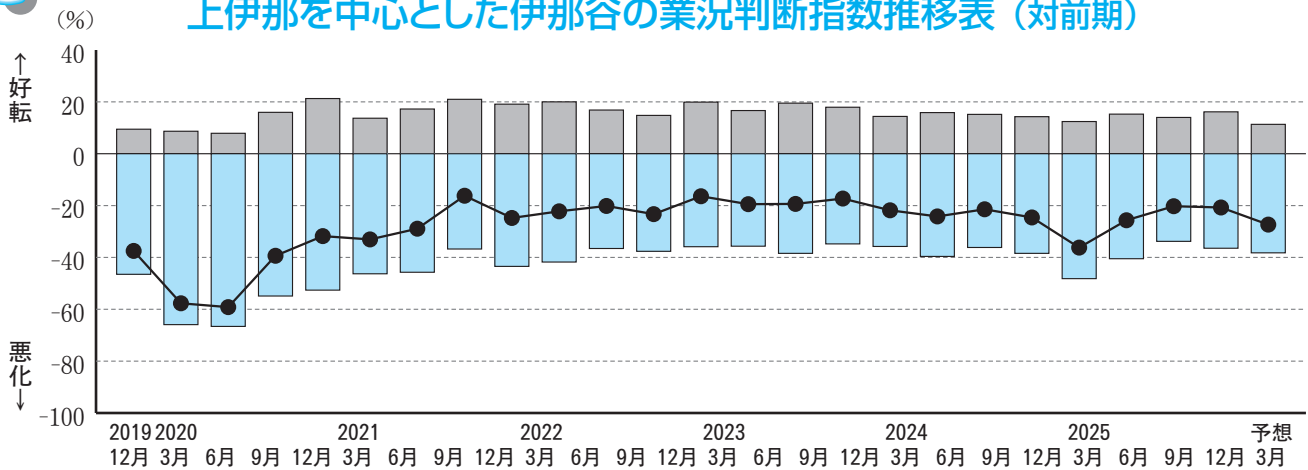
DIを総合的に見ると、▲**20.6**（前期▲**20.1**）と▲**0.5**ポイントで、悪化傾向はやや強まった状況。

業種別にDIを見ると、**サービス業**が**0.0**（前期▲**15.0**）と水面まで浮上した以外は、すべての業種がマイナス領域で、マイナスポイントが大きな順に、**不動産業**が▲**60.0**（前期**16.7**）、続いて**小売業**が▲**48.3**（前期▲**46.7**）、**卸売業**が▲**40.0**（前期▲**28.6**）、**製造業**が▲**14.5**（前期▲**17.4**）、**建設業**が▲**12.8**（前期▲**10.8**）の順となった。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は**11.5%**（今期**16.4%**）、悪いと予想する企業は**38.8%**（今期**37.0%**）、DIは▲**27.3**（今期▲**20.6**）と▲**6.7**ポイントで悪くなると予想する企業は増加した。

業種別のDIを見ても、すべての業種で悪くなると予想しているが、**卸売業**は▲**20.0**（今期▲**40.0**）とプラス**20.0**ポイントで厳しさは和らぐ予想、**不動産業**は▲**60.0**（今期▲**60.0**）、**建設業**は▲**12.8**（今期▲**12.8**）でいずれも今期と業況は変わらない予想であった。他の業種では、**サービス業**は▲**27.8**（今期**0.0**）と暗転する予想、**小売業**は▲**51.7**（今期▲**48.3**）、**製造業**では▲**23.2**（今期▲**14.5**）でいずれも低調感を強める予想となった。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

## 業種別天気図

業種	時期	2025年	2025年	2025年	2026年
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期予想
総合		☁	☁	☁	☁
製造業		☁	☁	☁	☁
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☔	☁	☁	☁
小売業		☔	☔	☁	☁
サービス業		☁	☁	☁	☁
不動産業		☁	☁	☁	☁



# 製造業

(調査先企業70社 うち回答企業69社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**21.7%**（前期**20.3%**）、悪かったとする企業は**36.2%**（前期**37.7%**）、DIは**▲14.5**（前期**▲17.4**）と**プラス2.9**ポイントで水面下ながら改善している。

各指標別を前期比で見ると、**売上額のDIは11.6**（前期**0.0**）と**プラス11.6**ポイント、**受注残のDIにおいては10.1**（前期**7.2**）と**プラス2.9**ポイントでいずれも好調感が強まっている。また、**収益のDIでも1.4**（前期**▲11.6**）と**プラス13.0**ポイントで増勢に転じている。**価格面では、販売価格のDIは11.6**（前期**2.9**）と**プラス8.7**ポイントで上昇傾向を強めたが、**原材料価格のDIでは▲47.8**（前期**▲46.4**）と**▲1.4**ポイントで上昇したと答えた企業の割合はやや増加している状況。**資金繰りのDIでは、▲7.2**（前期**▲11.6**）と**プラス4.4**ポイントで窮屈さは緩和している。**借入れをした企業は23.5%**（前期**23.5%**）、**設備投資の実施をした企業は40.8%**（前期**41.6%**）であった。

前年同期比で見ると、**売上額のDIは8.7**（前年同期**▲18.5**）と**プラス27.2**ポイントで好転し、**収益のDIも▲5.8**（前年同期**▲29.2**）と**プラス23.4**ポイントで改善されている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲23.2**（今期**▲14.5**）と**▲8.7**ポイントで低調感を強める予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額のDIは▲4.3**（今期**11.6**）と**▲15.9**ポイント、**収益のDIにおいても▲15.9**（今期**1.4**）で**▲17.3**ポイント、また、**受注残のDIにおいても▲2.9**（今期**10.1**）と**▲13.0**ポイントでいずれも減少に転じる予想となった。**価格面では、原材料価格のDIは▲38.2**（今期**▲47.8**）と**プラス9.6**ポイントで上昇傾向は弱まり、**販売価格のDIにおいては13.0**（今期**11.6**）と**プラス1.4**ポイントで上昇傾向は強まる予想である。**資金繰りのDIにおいては▲5.8**（今期**▲7.2**）と**プラス1.4**ポイントで窮屈感はやや弱まる見通しである。**借入れを予定している企業は22.4%**（今期実施**23.5%**）、**設備投資の実施を予定している企業は44.3%**（今期実施**40.8%**）となっている。

## ◆DI指数推移

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲38.5	▲33.8	▲25.4	▲17.4	▲14.5	▲23.2	
売 上 額	▲7.7	▲21.5	17.9	0.0	11.6	▲4.3	
受 注 残	▲9.2	▲15.4	10.4	7.2	10.1	▲2.9	
収 益	▲7.7	▲30.8	0.0	▲11.6	1.4	▲15.9	
販 売 価 格	9.2	21.5	10.4	2.9	11.6	13.0	
原 材 料 価 格	▲49.2	▲47.7	▲46.3	▲46.4	▲47.8	▲38.2	
原 材 料 在 庫	20.0	15.4	14.9	13.0	14.5	15.9	
資 金 繰 り	▲25.0	▲18.5	▲9.0	▲11.6	▲7.2	▲5.8	

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	23.1	35.4	19.4	23.5	23.5	22.4
	し ない	76.9	64.6	80.6	76.5	76.5	77.6
借 入 難 易 度	容 易	9.2	12.3	6.0	5.9	5.9	—
	不 変	63.1	66.2	73.1	73.5	66.2	—
	難	9.2	6.2	7.5	8.8	13.2	—
	該 当 な し	18.5	15.3	13.4	11.8	14.7	—

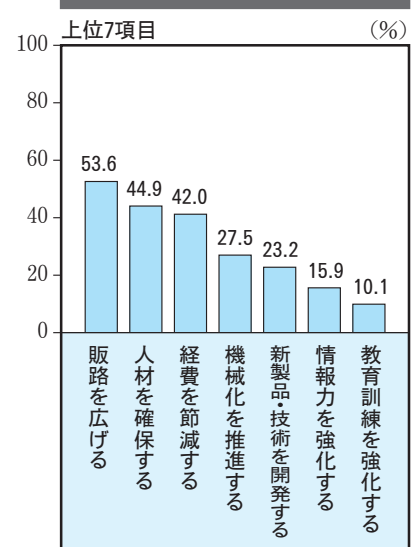
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	39.4	38.6	42.1	41.6	40.8	44.3
	し ない	60.6	61.4	57.9	58.4	59.2	55.7
状 況	過 剰	13.8	10.8	9.0	8.7	2.9	4.5
	適 正	75.4	83.0	79.1	75.4	78.0	76.1
	不 足	10.8	6.2	11.9	15.9	19.1	19.4
DI	3.0	4.6	▲2.9	▲7.2	▲16.2	▲14.9	

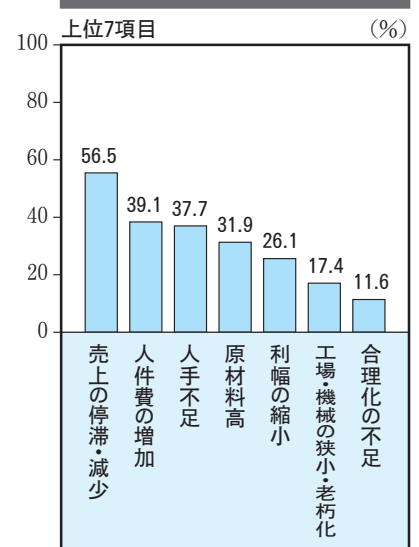
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	21.9	18.5	32.8	18.8	34.8	21.7
	不 変	56.2	70.7	55.3	71.1	59.4	68.2
	減 少	21.9	10.8	11.9	10.1	5.8	10.1
人 手	過 剰	32.3	18.8	17.9	14.5	7.2	10.1
	適 正	44.6	48.4	58.2	63.8	55.1	62.4
	不 足	23.1	32.8	23.9	21.7	37.7	27.5

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

# 建設業

(調査先企業42社 うち回答企業39社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は15.4%（前期5.4%）、悪かったとする企業は28.2%（前期16.2%）で、DIは▲12.8（前期▲10.8）と▲2.0ポイントで低調感を強めている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲12.8（前期0.0）と▲12.8ポイントで減少に転じ、施工高のDIにおいても▲5.1（前期13.5）と▲18.6ポイント、受注残のDIにおいても▲12.8（前期15.8）と▲28.6ポイントでいずれも増加から減少に転じている。また、収益のDIでは▲10.3（前期▲15.8）でプラス5.5ポイントと増加傾向となった。価格面では、請負価格のDIは13.2（前期10.5）とプラス2.7ポイントで上昇が強まり、材料価格のDIでも▲53.8（前期▲60.5）とプラス6.7ポイントで上昇したとする企業の割合は減少した。資金繰りのDIでは▲17.9（前期▲21.1）とプラス3.2ポイントで窮屈感が緩和している。借入れをした企業は34.2%（前期36.8%）、設備投資の実施をした企業は39.5%（前期44.2%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲5.1（前年同期▲13.5）とプラス8.4ポイントで改善傾向となったが、収益のDIにおいては▲20.5（前年同期▲13.5）と▲7.0ポイントで減少幅が拡大している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは▲12.8（今期▲12.8）と今期と変わらない予想である。各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲2.6（今期▲12.8）とプラス10.2ポイントで改善に向かう予想、収益のDIにおいても0.0（今期▲10.3）とプラス10.3ポイントで改善傾向、受注残のDIにおいては▲12.8（今期▲12.8）で今期と変わらない予想となった。価格面では、請負価格のDIは7.9（今期13.2）と▲5.3ポイントで上昇傾向は弱まり、材料価格のDIにおいても▲46.2（今期▲53.8）とプラス7.6ポイントで上昇傾向は弱まる見通しである。資金繰りのDIにおいては▲15.4（今期▲17.9）とプラス2.5ポイントで窮屈感は緩和する予想である。借入れを予定している企業は29.7%（今期実施34.2%）、設備投資の実施を予定している企業は23.1%（今期実施39.5%）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2024年		2025年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業況	2.7	▲12.5	▲10.3	▲10.8	▲12.8	▲12.8	
売上額	10.8	▲15.0	▲17.9	0.0	▲12.8	▲2.6	
受注残	▲5.4	▲22.5	▲12.8	15.8	▲12.8	▲12.8	
収益	2.7	▲15.0	▲15.4	▲15.8	▲10.3	0.0	
請負価格	2.7	5.0	2.6	10.5	13.2	7.9	
材料価格	▲62.2	▲60.0	▲46.2	▲60.5	▲53.8	▲46.2	
在庫	5.4	0.0	2.6	0.0	0.0	▲2.6	
資金繰り	▲13.5	▲12.5	0.0	▲21.1	▲17.9	▲15.4	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借入実施	した	35.1	27.5	30.8	36.8	34.2	29.7
	しない	64.9	72.5	69.2	63.2	65.8	70.3
借入難易度	容易	8.3	7.5	5.3	8.1	10.3	—
	不変	69.4	67.5	71.1	73.0	64.1	—
	難	8.3	10.0	0.0	5.4	10.3	—
	該当なし	14.0	15.0	23.6	13.5	15.3	—

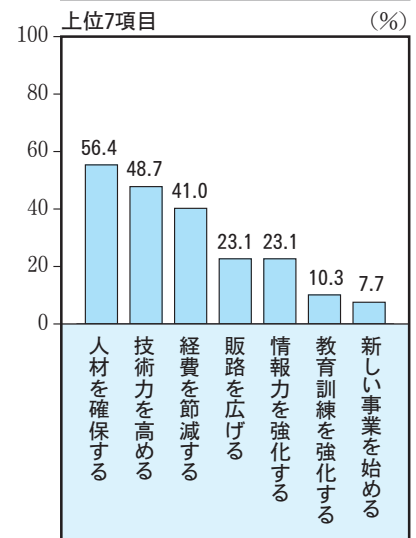
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実施	した	46.7	50.0	51.1	44.2	39.5	23.1
	しない	53.3	50.0	48.9	55.8	60.5	76.9
状況	過剰	0.0	0.0	5.1	2.6	0.0	0.0
	適正	91.7	92.5	89.8	86.9	97.4	97.4
	不足	8.3	7.5	5.1	10.5	2.6	2.6
DI	▲8.3	▲7.5	0.0	▲7.9	▲2.6	▲2.6	

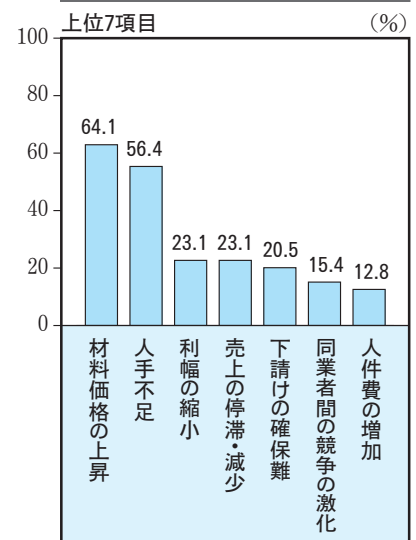
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残業時間	増加	5.4	7.5	10.3	0.0	12.8	12.8
	不変	73.0	72.5	71.8	76.3	79.5	79.5
	減少	21.6	20.0	17.9	23.7	7.7	7.7
人手	過剰	0.0	0.0	5.1	0.0	2.6	7.0
	適正	51.4	52.5	56.4	57.9	43.6	41.8
	不足	48.6	47.5	38.5	42.1	53.8	51.2

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



## 卸 売 業 (調査先企業8社 うち回答企業5社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は0.0%(前期14.3%)、悪かったとする企業は40.0%(前期42.9%)で、DIは▲40.0(前期▲28.6)と▲11.4ポイントで厳しさは増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは40.0(前期▲42.9)とプラス82.9ポイントで増加に転じ、収益のDIも80.0(前期▲28.6)とプラス108.6ポイントで増加に転じている。販売価格のDIは40.0(前期28.6)とプラス11.4ポイントで上昇が弱まり、仕入価格のDIについても▲40.0(前▲57.1)とプラス17.1ポイントで上昇の傾向は弱まっている。また、資金繰りのDIにおいては▲20.0(前期14.3)と資金繰りについては厳しい状況に転じている。借入れをした企業は60.0%(前期42.9%)、設備投資の実施をした企業は0.0%(前期14.3%)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲20.0(前年同期12.5)と▲32.5ポイントで増加から減少に転じ、収益のDIについては0.0(前年同期0.0)と変わらず安定している。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、業況のDIは▲20.0(今期▲40.0)とプラス20.0ポイントで厳しさが和らぐ予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲60.0(今期40.0)と▲100.0ポイント、収益のDIにおいても▲40.0(今期80.0)と▲120.0ポイントでいずれも減少に転じる予想となった。価格面をみると、販売価格のDIは20.0(今期40.0)と▲20.0ポイントで上昇は弱まり、仕入価格のDIにおいても▲40.0(今期▲40.0)と厳しさは継続する予想となった。また、資金繰りのDIにおいても▲20.0(今期▲20.0)と窮屈さは変わらない予想となった。借入れを予定している企業は40.0%(今期実施60.0%)、設備投資の実施を予定している企業は0.0%(今期実施0.0%)となっている。

## ◆DI指数推移

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲25.0	▲62.5	▲37.5	▲28.6	▲40.0	▲20.0	
売 上 額	50.0	▲37.5	25.0	▲42.9	40.0	▲60.0	
収 益	37.5	▲50.0	▲12.5	▲28.6	80.0	▲40.0	
販 売 価 格	50.0	25.0	62.5	28.6	40.0	20.0	
仕 入 価 格	▲50.0	▲50.0	▲75.0	▲57.1	▲40.0	▲40.0	
在 庫	▲12.5	▲12.5	12.5	0.0	▲20.0	▲20.0	
資 金 繰 り	0.0	0.0	0.0	14.3	▲20.0	▲20.0	

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	25.0	12.5	37.5	42.9	60.0	40.0
	し ない	75.0	87.5	62.5	57.1	40.0	60.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	75.0	87.5	75.0	71.4	100.0	—
	難	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該 当 な し	12.5	12.5	25.0	28.6	0.0	—

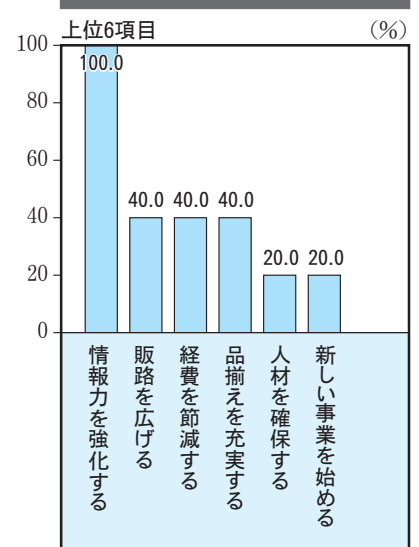
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	25.0	0.0	25.0	14.3	0.0	0.0
	し ない	75.0	100.0	75.0	85.7	100.0	100.0
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	87.5	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0
	不 足	12.5	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
DI	▲12.5	0.0	0.0	▲14.3	0.0	0.0	

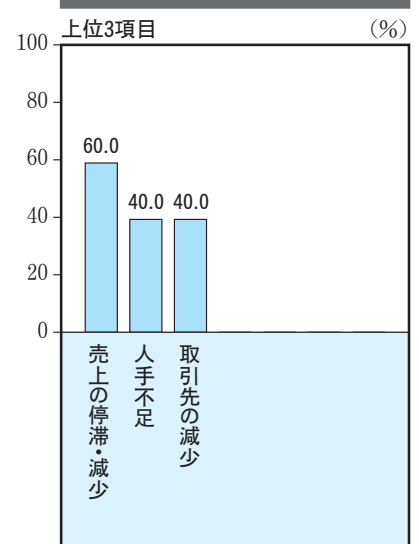
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	12.5	0.0	12.5	14.3	0.0	0.0
	不 変	87.5	100.0	62.5	85.7	80.0	80.0
	減 少	0.0	0.0	25.0	0.0	20.0	20.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	75.0	87.5	75.0	57.1	100.0	100.0
	不 足	25.0	12.5	25.0	42.9	0.0	0.0

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

# 小 売 業 (調査先企業34社 うち回答企業29社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**10.3%**（前期**10.0%**）、悪かったとする企業は**58.6%**（前期**56.7%**）、DIは**▲48.3**（前期**▲46.7**）と**▲1.6**ポイントで低調感はやや強まっている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**10.3**（前期**▲36.7**）と**プラス47.0**ポイントで好感が現れ、収益のDIも**▲27.6**（前期**▲40.0**）と**プラス12.4**ポイントで改善傾向となった。価格面では、販売価格のDIは**31.0**（前期**23.3**）と**プラス7.7**ポイントで上昇傾向を強め、仕入価格のDIにおいては**▲51.7**（前期**▲53.3**）と**プラス1.6**ポイントで仕入価格の上昇幅はやや縮小した。また、資金繰りのDIは**▲27.6**（前期**▲26.7**）で窮屈感がやや増した。借入れをした企業は**13.8%**（前期**16.7%**）、設備投資の実施をした企業は**28.6%**（前期**28.6%**）となっている。

これを前年同期と比較すると、売上額のDIは**▲17.2**（前年同期**▲33.3**）と**プラス16.1**ポイントで減少幅が縮小、また、収益のDIにおいては**▲51.7**（前年同期**▲42.4**）と**▲9.3**ポイントで減少幅を強めている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲51.7**（今期**▲48.3**）と**▲3.4**ポイントで業況感はさらに落ち込む予想となった。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは**▲32.1**（今期**10.3**）と**▲42.4**ポイントで増加から減少に転じ、収益のDIにおいても**▲50.0**（今期**▲27.6**）で**▲22.4**ポイントと減少を強める予想である。販売価格のDIは**17.9**（今期**31.0**）と**▲13.1**ポイントで上昇幅は縮小、仕入価格のDIも**▲37.9**（今期**▲51.7**）と**プラス13.8**ポイントで上昇幅は縮小する予想である。また、資金繰りのDIにおいては**▲20.7**（今期**▲27.6**）と**プラス6.9**ポイントで窮屈感は弱まる予想となった。借入れを予定している企業は**13.8%**（今期実施**13.8%**）、設備投資の実施を予定している企業は**11.1%**（今期実施**28.6%**）となっている。

◆DI指数推移

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲39.4	▲43.8	▲53.3	▲46.7	▲48.3	▲51.7	
売 上 額	▲12.1	▲21.2	▲30.0	▲36.7	10.3	▲32.1	
収 益	▲21.2	▲33.3	▲33.3	▲40.0	▲27.6	▲50.0	
販 売 価 格	48.5	39.4	23.3	23.3	31.0	17.9	
仕 入 価 格	▲69.7	▲66.7	▲40.0	▲53.3	▲51.7	▲37.9	
在 庫	18.2	▲3.0	13.3	16.7	13.8	17.2	
資 金 繰 り	▲27.3	▲15.2	▲26.7	▲26.7	▲27.6	▲20.7	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	18.2	15.2	17.2	16.7	13.8	13.8
	しない	81.8	84.8	82.8	83.3	86.2	86.2
借 入 難 易 度	容 易	12.9	9.7	10.3	10.3	14.3	—
	不 変	64.5	67.7	69.0	65.5	67.9	—
	難	12.9	9.7	10.3	13.8	10.7	—
	該当なし	9.7	12.9	10.4	10.4	7.1	—

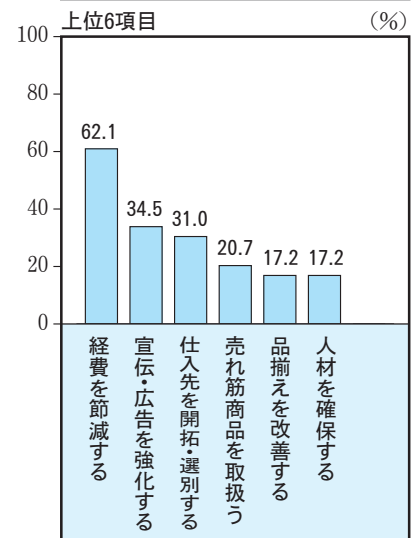
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	20.0	23.3	26.9	28.6	28.6	11.1
	しない	80.0	76.7	73.1	71.4	71.4	88.9
状 況	過 剰	3.0	6.1	13.3	6.9	10.3	6.9
	適 正	90.9	81.8	80.0	82.8	86.3	89.7
	不 足	6.1	12.1	6.7	10.3	3.4	3.4
DI	▲3.1	▲6.0	6.6	▲3.4	6.9	3.5	

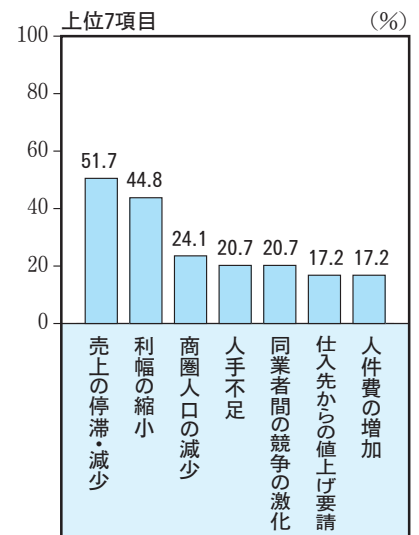
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	9.4	6.3	10.0	3.4	6.9	10.3
	不 変	78.1	78.1	76.7	86.3	82.8	79.4
	減 少	12.5	15.6	13.3	10.3	10.3	10.3
人 手	過 剰	6.3	3.1	13.3	6.9	6.9	6.9
	適 正	56.2	62.5	60.0	58.6	62.1	58.6
	不 足	37.5	34.4	26.7	34.5	31.0	34.5

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



## サービス業 (調査先企業23社 うち回答企業18社)

◇今期の業況：今期の業況は、良かったとする企業は16.7%（前期10.0%）、悪かったとする企業は16.7%（前期25.0%）、DIは0.0（前期▲15.0）とプラス15.0ポイントで業況は改善している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲33.3（前期10.0）と▲43.3ポイントで減少に転じ、収益のDIにおいても▲33.3（前期▲5.0）と▲28.3ポイントで減少幅が拡大している。料金価格のDIは5.6（前期30.0）と▲24.4ポイントで上昇は弱まり、仕入価格のDIでも▲72.2（前期▲75.0）とプラス2.8ポイントで上昇はやや和らいでいる。また、資金繰りのDIでは▲11.1（前期▲25.0）とプラス13.9ポイントで窮屈感は弱まっている。借入れをした企業は11.1%（前期5.0%）、設備投資の実施をした企業は27.8%（前期38.1%）となっている。

前年同期との比較では、売上額のDIは5.6（前年同期9.1）と▲3.5ポイントで増加幅は縮小、収益のDIにおいては▲5.6（前年同期▲4.5）と▲1.1ポイントで減少幅は増加している。

◇来期の見通し：来期の見通しについて、業況のDIは▲27.8（今期0.0）と▲27.8ポイントで悪化傾向に転じる予想となった。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲44.4（今期▲33.3）と▲11.1ポイント、収益のDIにおいても▲44.4（今期▲33.3）と▲11.1ポイントでいずれも減少が強まる見通しである。仕入価格のDIは▲61.1（今期▲72.2）とプラス11.1ポイントで価格上昇は弱まり、料金価格のDIは22.2（今期5.6）とプラス16.6ポイントで上昇を強める見通しである。資金繰りのDIは▲16.7（今期▲11.1）と▲5.6ポイントで窮屈感は強まる予想。借入れを予定している企業は17.6%（今期実施11.1%）、設備投資の実施を予定している企業は15.8%（今期実施27.8%）となっている。

## ◆DI指数推移

(%)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲17.4	▲65.2	▲10.5	▲15.0	0.0	▲27.8	
売 上 額	▲26.1	▲39.1	21.1	10.0	▲33.3	▲44.4	
収 益	▲30.4	▲65.2	10.5	▲5.0	▲33.3	▲44.4	
料 金 価 格	4.3	26.1	31.6	30.0	5.6	22.2	
材 料 価 格	▲60.9	▲87.0	▲78.9	▲75.0	▲72.2	▲61.1	
資 金 繰 り	▲21.7	▲26.1	▲15.8	▲25.0	▲11.1	▲16.7	

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

(%)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 施	した	13.6	13.0	10.5	5.0	11.1	17.6
	しない	86.4	87.0	89.5	95.0	88.9	82.4
借 入 難 易 度	容 易	17.4	4.3	5.3	10.0	11.8	—
	不 変	43.5	65.2	52.6	60.0	58.8	—
	難	13.0	8.7	10.5	15.0	11.8	—
	該当なし	26.1	21.8	31.6	15.0	17.6	—

## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

(%)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	38.5	21.7	19.0	38.1	27.8	15.8
	しない	61.5	78.3	81.0	61.9	72.2	84.2
状 況	過 剰	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	65.3	77.3	73.7	55.0	66.7	64.7
	不 足	30.4	22.7	26.3	45.0	33.3	35.3
DI	▲26.1	▲22.7	▲26.3	▲45.0	▲33.3	▲35.3	

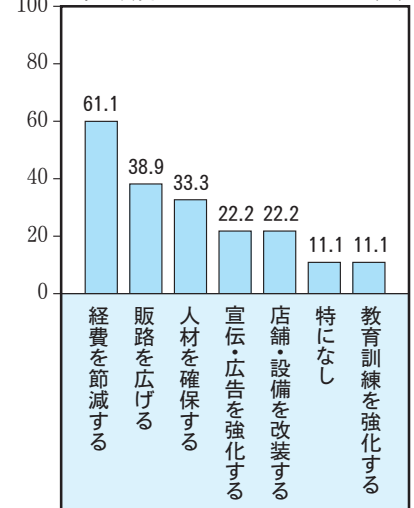
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

(%)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	4.3	4.5	10.5	10.5	11.8	5.9
	不 変	78.3	86.4	79.0	84.2	88.2	88.2
	減 少	17.4	9.1	10.5	5.3	0.0	5.9
人 手	過 剰	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	適 正	52.2	47.9	73.7	55.0	38.9	44.5
	不 足	47.8	39.1	26.3	45.0	61.1	44.4

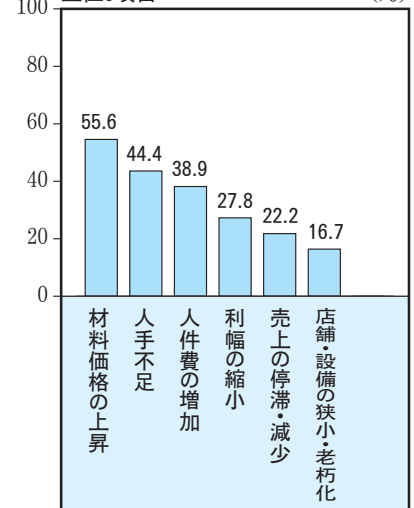
## 重点経営施策(複数回答)

上位7項目 (%)



## 経営上の問題点(複数回答)

上位6項目 (%)



# 不動産業

(調査先企業6社 うち回答企業5社)

◇**今期の業況**: 今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**(前期**33.3%**)、悪かったとする企業は**60.0%**(前期**16.7%**)で、DIは**▲60.0**(前期**16.7**)と**▲76.7**ポイントで悪化に転じている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲20.0**(前期**16.7**)で**▲36.7**ポイント、収益のDIについても**▲20.0**(前期**16.7**)で**▲36.7**ポイントでいずれも減少に転じている。価格面においては、販売価格のDIは**40.0**(前期**16.7**)とプラス**23.3**ポイントで上昇を強めたが、仕入価格のDIにおいても**▲60.0**(前期**▲33.3**)と**▲26.7**ポイントで上昇は強まった。資金繰りのDIは、**▲20.0**(前期**▲33.3**)とプラス**13.3**ポイントで窮屈感は弱まった。借入れをした企業は**40.0%**(前期**66.7%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**0.0**(前年同期**16.7**)と**▲16.7**ポイントで増加傾向が一服、収益のDIにおいては**▲20.0**(前年同期**16.7**)と**▲36.7**ポイントで減少に転じている。

◇**来期の見通し**: 来期の見通しについては、業況のDIは**▲60.0**(今期**▲60.0**)と引き続き状況は厳しい予想。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**0.0**(今期**▲20.0**)とプラス**20.0**ポイント、収益のDIにおいても**0.0**(今期**▲20.0**)とプラス**20.0**ポイントで、いずれも回復基調になると予想をしている。販売価格のDIは**20.0**(今期**40.0**)と**▲20.0**ポイントで上昇傾向は弱まる見通し、仕入価格のDIにおいては**▲40.0**(今期**▲60.0**)とプラス**20.0**ポイントで上昇傾向は弱まる見通しである。また、資金繰りのDIについては**0.0**(今期**▲20.0**)で窮屈感は無くなる予想である。借入れを予定している企業は**60.0%**(今期実施**40.0%**)となっている。

## ◆DI指数推移

(%)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	16.7	▲33.3	▲20.0	16.7	▲60.0	▲60.0	
売 上 額	▲33.3	33.3	▲20.0	16.7	▲20.0	0.0	
収 益	0.0	0.0	▲40.0	16.7	▲20.0	0.0	
販 売 価 格	0.0	0.0	0.0	16.7	40.0	20.0	
仕 入 価 格	▲16.7	▲33.3	▲20.0	▲33.3	▲60.0	▲40.0	
在 庫	▲33.3	▲50.0	▲40.0	▲16.7	▲60.0	▲40.0	
資 金 繰 り	0.0	0.0	▲20.0	▲33.3	▲20.0	0.0	

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

(%)

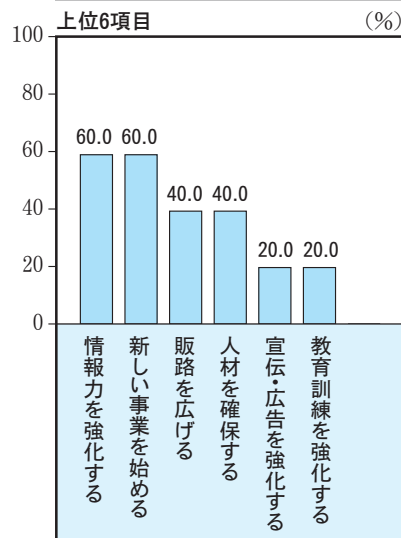
	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	50.0	66.7	60.0	66.7	40.0	60.0
	しない	50.0	33.3	40.0	33.3	60.0	40.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	83.3	83.3	80.0	83.3	100.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	16.7	16.7	20.0	16.7	0.0	—

## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

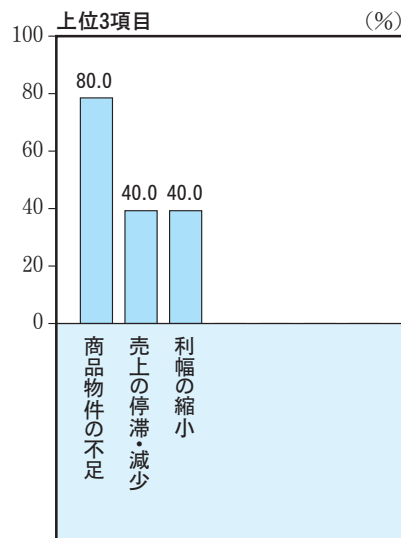
(%)

	2024年		2025年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 間	増 加	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	66.6	83.3	100.0	83.3	100.0	100.0
	減 少	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	83.3	83.3	80.0	83.3	60.0	60.0
	不 足	16.7	16.7	20.0	16.7	40.0	40.0

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



## 特別調査 2026年（令和8年）の経営見通し

### 問1 貴社では、2026年の日本の景気をどのように見通していますか。

総合では、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）と回答した企業の割合は**21.2%**（前年**5.3%**）と昨年を上回り、『悪い』（「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計）と回答した企業の割合は**50.9%**（前年**63.5%**）と昨年を下回っている。『良い』-『悪い』は**▲29.7**ポイントとなり景況は引き続き厳しい状況になると予想しているが、1年前の本特別調査「**2025年（令和7年）の経営見通し**」での同数値**▲58.2**ポイントと比較すると、プラス**28.5**ポイントで景況感は改善されている。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、卸売業と不動産業が**0.0**まで業況は改善、他は全ての業種においてマイナス領域であるが、マイナスが大きい順に、小売業**▲48.3**、建設業**▲33.3**、サービス業**▲27.8**、製造業**▲24.6**ポイントの順となっている。また、いずれの業種においても「非常に良い」と予想する企業は無かった。

（%）

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
2025年の日本の景気	1.非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2.良い	2.4	1.4	0.0	0.0	3.4	11.1	0.0
	3.やや良い	18.8	23.2	15.4	40.0	13.8	11.1	20.0
	4.普通	27.9	26.1	35.9	20.0	17.2	27.8	60.0
	5.やや悪い	38.8	34.8	43.6	40.0	44.8	38.9	20.0
	6.悪い	10.9	13.0	5.1	0.0	17.2	11.1	0.0
	7.非常に悪い	1.2	1.4	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0

### 問2 貴社では、2026年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。

総合では、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）と回答した企業の割合は**16.4%**（前年**10.6%**）、一方『悪い』（「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計）と回答した企業の割合は**41.2%**（前年**49.4%**）、と高くなっている。『良い』-『悪い』は**▲24.8**となり、自社の業況（景気）は上記「問1」の日本の景気見通しと同様に厳しさを増すと予想している。1年前の本特別調査「**2025年（令和7年）の経営見通し**」での同数値**▲38.8**と比較すると、プラス**14.0**ポイントで自社の景況感においても改善されている。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、全ての業種においてマイナス領域であるが、マイナスが大きい順に、小売業**▲69.0**、不動産業**▲40.0**、サービス業**▲27.8**、卸売業**▲20.0**、建設業**▲15.4**、製造業**▲10.1**の順となっている。

（%）

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
2025年の自社の景気	1.非常に良い	0.6	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	2.良い	1.2	1.4	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
	3.やや良い	14.5	23.2	10.3	20.0	3.4	11.1	0.0
	4.普通	42.4	40.6	59.0	40.0	24.1	38.9	60.0
	5.やや悪い	31.5	23.2	23.1	40.0	55.2	38.9	40.0
	6.悪い	9.1	10.1	5.1	0.0	17.2	5.6	0.0
	7.非常に悪い	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 問3 2026年において貴社の売上額の伸び率は、2025年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

総合では、『増加』（「30%以上の増加」～「10%未満の増加」の合計）と回答した企業の割合は**37.6%**（前年**29.4%**）、『減少』（「30%以上の減少」～「10%未満の減少」の合計）と回答した企業の割合は**29.1%**（前年**32.4%**）であった。『増加』-『減少』はプラス**8.5**ポイントで『増加』と答えた企業が『減少』と答えた企業を上回った。また、最も多い回答は「変わらない」で**33.3%**、続いて「10%未満の増加」が**25.5%**、「10%未満の減少」が**19.4%**の順であった。

業種別に『増加』-『減少』を見た場合、プラス領域（『増加』が『減少』を上回った）であった業種は、不動産業が**60.0**、製造業が**21.7**、サービス業が**5.6**の順であった。マイナス領域（『増加』が『減少』を下回った）であった業種は、小売業が**▲13.8**、建設業が**▲2.6**となっている。卸売業は**0.0**であった。

(%)

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
2025年の自社の売上額の伸び率	1. 30%以上の増加	1.8	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	20.0
	2. 20～29%の増加	1.2	1.4	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	3. 10～19%の増加	9.1	14.5	5.1	0.0	6.9	0.0	20.0
	4. 10%未満の増加	25.5	30.4	15.4	20.0	20.7	33.3	40.0
	5. 変わらない	33.3	29.0	41.0	60.0	31.0	38.9	0.0
	6. 10%未満の減少	19.4	15.9	20.5	0.0	27.6	22.2	20.0
	7. 10～19%の減少	4.8	2.9	5.1	20.0	6.9	5.6	0.0
	8. 20～29%の減少	3.0	4.3	2.6	0.0	3.4	0.0	0.0
	9. 30%以上の減少	1.8	1.4	2.6	0.0	3.4	0.0	0.0

#### 問4 貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。

総合では、『1年以内に良好感が出る』（「すでに上向いている」・「6か月以内」・「1年後」の合計）と回答した企業の割合は全体の**43.8%**（前年**57.5%**）で、中でも最も多かったのは「すでに上向いている」の回答で**17.5%**だった。『良好感が遅れる』（「2年後」・「3年後」・「3年超」の合計）と回答した企業の割合は**24.4%**（前年**15.0%**）であった。一方で「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業の割合は**31.9%**となっており、全体の3割以上の企業は先行きが見通せない状況が続くと回答しており、前年（**27.5%**）より増加している。

業種別に『1年以内に良好感が出る』と回答した企業の割合は、不動産業が**80.0%**で最も高く、次いで、製造業が**57.6%**、建設業**41.0%**、卸売業**40.0%**、サービス業**35.3%**、小売業**14.3%**の順となっている。また、「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業の割合が最も多かったのはサービス業で**41.2%**であった。（%）

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
自社の上向く転換点	1. すでに上向いている	17.5	24.2	12.8	0.0	7.1	17.6	40.0
	2. 6か月以内	12.5	19.7	10.3	20.0	3.6	0.0	20.0
	3. 1年後	13.8	13.6	17.9	20.0	3.6	17.6	20.0
	4. 2年後	12.5	13.6	15.4	20.0	7.1	5.9	20.0
	5. 3年後	4.4	3.0	10.3	0.0	0.0	5.9	0.0
	6. 3年超	7.5	6.1	0.0	20.0	17.9	11.8	0.0
	7. 業況改善の見通しは立たない	31.9	19.7	33.3	20.0	60.7	41.2	0.0

#### 問5 紙の手形・小切手の利用状況について、貴社では、現時点で、企業間の資金決済の手段として紙の手形・小切手を使っていますか。使っている場合はその理由を、やめた場合は現在の主な資金決済手段を、そもそも使っていない場合は「0」にてお答えください。

総合的に見ると、「紙の手形・小切手を使っている」が最も多く全体の**39.6%**、「紙の手形・小切手をやめた」が**24.5%**、「そもそも使っていない」が**35.9%**であった。「紙の手形・小切手を使っている」理由では「取引先との慣行で使わざるを得ない」が**46.0%**、「コスト面が現状のままが最適」が**17.5%**、「経理事務の変更が困難」が**15.9%**であった。その他の中には「在庫を使い切るため」との回答もあった。「紙の手形・小切手をやめた」場合の主な資金決済は、「でんさい」が**51.3%**、「IB」が**48.7%**とおおよそ半々の決済方法に分かれている。

業種別に見ると、「紙の手形・小切手をやめた」が最も多かったのは卸売業で**40.0%**、次に製造業が**28.4%**、続いて建設業が**25.0%**、小売業が**24.1%**、サービス業が**11.8%**であった。また、不動産業では「そもそも使っていない」の回答が**100.0%**であった。（%）

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
紙の手形小切手を使っている	1. 取引先との慣行で使わざるを得ない	18.2	23.9	19.4	0.0	17.2	5.9	0.0
	2. 経理事務の変更が困難	6.3	6.0	8.3	0.0	3.4	11.8	0.0
	3. コスト面で現状のままが最適	6.9	3.0	2.8	40.0	13.8	11.8	0.0
	4. でんさい、IB等のセキュリティ面に懸念	0.6	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0
	5. でんさい、IB等の操作面に懸念	1.9	1.5	2.8	0.0	3.4	0.0	0.0
	6. その他	5.7	7.5	5.6	0.0	3.4	5.9	0.0
手をやめた	7. でんさい	12.6	17.9	8.3	20.0	13.8	0.0	0.0
	8. IB	11.9	10.4	16.7	20.0	10.3	11.8	0.0
	9. その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そもそも	10. 使っていない	35.8	29.9	36.1	20.0	31.0	52.9	100.0